

令和5年度暫定評価の反映状況

評価結果	業務運営の改善への反映状況	備 考 業務実績報告書 項目別実績番号
1. 中期目標で示した、各病院における病床稼働率の目標値を達成するため、病床の適正管理に努められたい。	令和5年度は、各病院ともに依然 SARS-CoV-2（以下「新型コロナウイルス」という。）感染症の影響により、感染症拡大以前と比べると病床稼働率については低い水準が続いている。 総合病院では令和5年5月8日以降、一般病床にて新型コロナウイルス感染症患者を受け入れることで周辺病床の入院が制限されることから、一般病床稼働率は85.4%となり、目標値（90%以上）を下回っているが、重症感染症患者を多く受入れ、地域医療の維持に大きく貢献した。 こころの医療センターでは、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなったが、令和5年の病床稼働率は84.0%と目標値（85.0%以上）を下回った。 こども病院では、令和5年5月の電子カルテの更新に伴い、安全確保を優先し、4月及び5月に入院患者の受入れ調整を行ったこと等により上半期は目標値（75%以上）を下回ったが、下半期には効率的な病床運営が推進されたことにより稼働率80%を超える月も複数あり、年間の稼働率は75.9%と目標値を上回った。 今後、各病院とも院内感染対策を取りつつ、効率的な病床運営による平均在院日数の適正管理に努めるほか、近隣医療機関と連携して紹介率、逆紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図っていく。	39、49、60 各病院
2. こころの医療センターにおいては、リハビリテーション（デイケア）の利用者増加に向けて、活動再開に伴う調整など継続的に取り組まれたい。	令和5年度は、デイケア活動を中止することなく継続できており、徐々に新型コロナウイルス感染症流行前の実施体制に移行してきている。また、院内の窓口や売店などで案内ポスターの掲示やパンフレットの配架を行う等の広報活動により、利用者の増加に努めた。	17 こころ

3. こども病院におけるラーニングセンターについては、令和6年度の運用開始に向けて、引き続き検討されたい。	従来のラーニングセンターは、令和2年度以降の病棟工事や新型コロナ対策物品の保管場所となるなど使用できない期間が続いたことから、会議室や空き病室を利用した研修を実施してきた。 ラーニングセンター再開に向け、令和4年度にL棟3階の大会議室含むエリアにラーニングセンター機能を付加することを決定した。 このことを受け、令和5年度に大会議室の改修及び近隣の会議室にポータブル医ガス装置を整備することで実技研修を常時実施可能な環境を整備して各種研修に必要な機能を集約した。 令和6年度から当該ラーニングセンターを運用し、医療従事者による研修を更に充実させる。	67 こども
4. 経常収支については、今後の人口減少・少子高齢化の進行や患者の受療行動の変化など、地域における将来の医療需要を見据え、病院機構全体での課題を検討するなど、業務運営の改善・効率化を一層進められたい。	機構本部では、毎月、3病院の月次決算資料を作成し、前年同月実績値との比較による経費の増減分析等を行い、理事会で報告している。 令和5年度末に新設した経営戦略会議には3病院及び本部事務部門の幹部職員が参加し、機構内における経営改善に向けた取り組み等を議論し、様々な課題への対応や事務執行体制の見直しなどに取り組んでいる。 また、当該会議などにより各病院の取組状況の進捗管理を行い、着実な課題の解決を図ることとする。	119 本部